

令和 5 年 6 月 5 日現在

機関番号：32103

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2018～2022

課題番号：18K00424

研究課題名（和文）初期近代英国史劇の生成と発展 - 劇団・劇場・俳優のネットワークを中心に

研究課題名（英文）History Plays in Early Modern England

研究代表者

真部 多真記（Manabe, Tamaki）

常磐大学・人間科学部・准教授

研究者番号：30364483

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 900,000円

研究成果の概要（和文）：デジタル・アーカイブズを使用し、初期近代演劇の発展に大きく貢献した1580年代から1600年代の英国史を題材にした歴史劇の生成と発展について考察をした。主に『サー・ジョン・オールドカスル』『ヘンリー八世』『ジョン王の乱世』『ジョン王』の四作品について、時代背景、劇団構成、政治的背景、宗教的背景等を考察しつつ、また同時代の他の歴史劇との比較を通じて、歴史劇は劇作家の歴史的想像力が当時の時代背景からさまざまな影響を受けながら創作され、その過程で劇団の宗教観や歴史認識も関わっていたことを確認した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

近代国家としての歩みをはじめたイングランドにとって、歴史劇は自国の歴史を振り返りながら愛国心やイングランド人としてのアイデンティティを確認する上で重要な役割を担っており、女王一座や海軍大臣一座という特定の劇団が歴史劇を牽引したことを考えると、歴史劇にみられる国家観や歴史観、宗教観についての劇団の果たした役割の大きさを検証することは重要である。その検証が一部できたことに本研究の学術的意義がある。

研究成果の概要（英文）：Using digital archives, I considered the creation and development of historical dramas based on British history, which contributed greatly to the development of early modern theater. Mainly I dealt with the four works, "Sir John Oldcastle", "Henry VIII", "The Troublesome Reign of John, the King of England" and "King John", and analyze them with consideration of the historical and political background and the company. In conclusion, the playwright's historical imagination created those historical dramas, influenced by the historical background of the time, and in the process the playing company's religious views and historical awareness were also involved in the plays.

研究分野：英文学

キーワード：イギリス演劇 歴史劇

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

本研究開始当初の歴史劇研究をめぐる背景は、作品の登場人物分析、王権表象分析、政治問題や領有の問題等をその時代の政治背景やイデオロギーを反映させながらおこなわれていたことがあげられる。また、演劇作品は劇団・俳優・劇場・出版など作品をめぐるネットワークのなかでとらえる必要があり、アンドルー・ガーをはじめ演劇とその周辺世界の相関関係を実証的に検証する研究も進められていた。本研究ではこのような学術的背景をふまえ、英国史を題材とする歴史劇を、演劇をめぐる周辺世界への理解とともに分析することを目標とした。

2. 研究の目的

本研究は、デジタル・アーカイヴズを利用し、初期近代演劇の発展に大きく貢献した 1580 年代から 1600 年代はじめまでの歴史劇をとりあげ、演劇をめぐる周辺世界との関わりも分析対象としつつ、歴史劇の生成と発展について考察することを目的とする。

3. 研究の方法

(1) Early English Books Online, The Database of Early English Playbooks, Project Gutenberg などのデジタル・アーカイヴズを利用して、演劇以外の詩、散文の作品や歴史的資料を活用し、従来あまりふれられなかった作品や資料から歴史劇をめぐる世界の再現を試みる。

(2) 歴史劇の材源とされているホリンシェッドやホール、フォックス等の歴史記述の分析を行い、当時の歴史意識について考察する。

(3) 劇団研究として、マクリーンの The Queen's Men and their Plays やグリフィンの Locating the Queen's Men, 1583-1603、あるいはアンドルー・ガーの劇場・劇団研究などの先行研究をもとに歴史劇を上演するにあたり、劇団の状況を調査する。

(4) (1) から (3) の分析をもとに、歴史劇を読み直し、歴史劇の生成と発展について考察をすすめる。

4. 研究成果

(1) 『サー・ジョン・オールドカスル』と反カトリック意識

『サー・ジョン・オールドカスル』は、従来の研究ではジョン・フォックスの『殉教者列伝』に取材した一連の劇のひとつであり、選民思想を描いたものと理解されてきた。そこで、まず『殉教者列伝』におけるフォックスの描くオールドカスル像を分析した。その結果、フォックスは従来の歴史記述に見られるオールドカスルへの偏見を、歴史記述や年代記が実証的ではないことをあげて批判しており、ロラード派の転覆性とオールドカスルへの反乱の関与を否定していることが推察された。次に、『サー・ジョン・オールドカスル』は、シェイクスピアの『ヘンリー四世』二部作におけるフォールスタッフ表象に対する反論として理解されてきたが、劇の焦点はオールドカスル像の軌道修正や選民思想ではなく、彼が信奉したとされるロラード派の暴動への関与とロチェスター司教の人物像にこめられた反カトリック性であると結論づけた。

(2) 『ヘンリー八世』とイングランドの宗教改革

『ヘンリー八世』はシェイクスピアの歴史劇のなかではチューダー王朝が成立するまでの内乱の歴史を描いた 1590 年代の歴史劇とは異なり、対外戦争にあけくねながら国王としての基盤を築こうとする国王の物語というより後期ロマンス劇との類似という観点から論じられることが多かった。しかし、本劇が書かれた時代背景、材源となっているホリンシェッドやストウ、フォックスの使い方、劇中に書かれているヘンリー八世の「良心」の問題、この劇以前にすでにヘンリー八世が登場する歴史劇は複数存在していること等を考慮にいれてあらためて考察すると、チューダー朝が終焉した後にあらためて、イングランドの宗教をいばらの道へとすすませたヘンリー八世という国王をふりかえる歴史劇と考えられる。特に興味深い点としては、エリザベス女王時代あるいはジェームズ 1 世即位後も、国内に宗教問題で危機的状況が生まれるときに、ヘンリー八世のイメージが詩、パンフレット等に多用されることがあった。このことを『ヘンリー八世』が上演された 1613 年頃に当てはめてみると、前年にはプロテスタントからの信望があつたヘンリー王子の死去、あるいは国際的なプロテスタントネットワークにおけるイングランドの難しい位置づけなど、上演当時はあらためてカトリック、プロテスタントのどちらが正しいのかを突き付けられる時代であり、その始まりをつくったヘンリー八世は格好の題材であったと考えられる。

(3) 『ジョン王の乱世』女王一座と歴史劇

マクミリンとマクリーンによる先行研究をもとに女王一座の劇団構成や上演形態等について理解を深め、同劇団によって上演された歴史劇を精読すると、この劇団の歴史劇へのこだわりがのちの歴史劇の発展に影響をあたえたと考えられる。『ジョン王の乱世』は反カトリック、反スペインという当時の時代背景を考慮すると、従来から指摘されているように反カトリックのプロパガンダ的色彩が強い劇と言えなくもないが、実際の劇構造を精査すると、マーガレットが劇中で述べるように pro and contra の連続であり、複眼的な構造はイングランドとフランスの二構

造であるだけでなく、イングランド内部がすでに複眼的な視点で描かれている。ジョン王はイングランド王としては失政続きであるが、フランス領土を失うことでかえって、上演当時の観客にとってなじみのある「イングランド」の国王としてのはじまりであることからそれほど単純に当時の時代背景を反映した反カトリック劇とは言い切れないと考えられる。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 3件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 0件）

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 Tamaki Manabe | 4. 巻 66 |
| 2. 論文標題 "I know my life so even": Katherine of Aragon in King Henry VIII and Griselda's Story | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 The Tsuda Review | 6. 最初と最後の頁 31-47 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 Tamaki Manabe | 4. 巻 65 |
| 2. 論文標題 "Truth Loves Open Dealing": The Truth of the Henrician Reformation in King Henry VIII | 5. 発行年 2020年 |
| 3. 雑誌名 The Tsuda Review | 6. 最初と最後の頁 59-78 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|---|-----------------------|
| 1. 著者名 Tamaki Manabe | 4. 巻 63 |
| 2. 論文標題 John Foxe's "Oldcastle Controversy" Acts and Monuments | 5. 発行年 2018年 |
| 3. 雑誌名 The Tsuda Review | 6. 最初と最後の頁 51 - 62 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件／うち国際学会 0件）

| |
|---|
| 1. 発表者名 真部 多真記 |
| 2. 発表標題 17世紀初頭のヘンリー八世：シェイクスピア、フレッチャー作 『ヘンリー八世』 |
| 3. 学会等名 エリザベス朝研究会 |
| 4. 発表年 2019年 |

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

| | 氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号) | 所属研究機関・部局・職 (機関番号) | 備考 |
|--|---------------------------|-----------------------|----|
|--|---------------------------|-----------------------|----|

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

| 共同研究相手国 | 相手方研究機関 |
|---------|---------|
|---------|---------|